

釧路市内では、夏休み中にラインやゲーム上でのトラブルが原因で「登校渋り」を訴えている事例がいくつか報告されています。ゲームやスマホなどの情報機器は、便利で効率が良く楽しいものですが、扱い方を間違えると犯罪に巻き込まれたり依存症になって苦しんだり、友人関係がうまくいかなくなったりと危険性を多く持ったアイテムだということを親子で確認してほしいです。

## ～ 「お友達申請(フレンド)」に関わるトラブルの増加 ～

思春期は、同年代の友人との繋がりが幸せを感じる大きな要因になります。些細なケンカから相手を「お友達申請(フレンド)」から外して、グループから締め出す。その決定権を持つ人に気を遣い身も心も疲れていくという事例が、釧路市内ではいくつも報告されています。

不条理とは、「**答えがないもの**」「**変えられないもの**」のことを言います。不条理の対処は、ただ一つだけです。それは、「**そのまま受け止めることだけ**」です。

未来は「答えがないもの」で不条理です。未来を恐れたり不安になったりする人は、不条理の対処を知らない人です。不条理の対処である「受け止めるだけ」を実践するには、「まあいいか」「なんとかなるさ」「そのときに考えればいい」という**楽観性**が必要になります。

また、他人は自分の願う通りに行動はしません。こちらの要望に対してどうするかは、相手が決めることであり、相手をコントロールすることはできないのです。そうです、不条理なのです。「過去と他人は変えられない」「相手に要望を出してもどうするかは相手が決める」という不条理には、「まあいいか」という折り合いをつけて受け止める勇気が必要になります。仲間外しをする相手を変えることはできなくても相手とどう付き合うかは変えることはできます。

思春期は、**不条理の対処**ができるようになったら**卒業**です。「本音と建前」を生活の知恵として静かに受け入れ、「**相手を変えるのではなく(これは無理です)、自分の受け止め方や付き合い方を変えていく**」のがしなやかな生き方です。

「友達関係」は、良いときもあれば距離を取りたくなるときもあり、それらを全部まとめた言葉では説明できにくいつながりです。「友達申請」という契約の関係は、「取り引き」となるので『**損得が第一**』や『**主導権がある心地よさ**』を身につける生き方になります。周りを巻き込み、孤立感を生み出す「お友達申請(フレンド)」システムは、思春期段階では、傷つくリスクが大きく対処できない子どもが続出します。子どもには、ラインでの悪口や言葉の受け取り方の誤解などでのトラブルでの「傷つくリスク」を丁寧に説明する。そして、思い通りにならないことや思いがけないことが起きるといふ「不条理」を理解させる。その上で**安易に繋がりを求めるラインは非常に危険である**ことを、親子で真剣に誠実に語り合うことが絶対的に必要です。